

尾島図書館だより

No.176 2018 6. 1 太田市立尾島図書館



ざあざあ



ちゃぶちゃぶ



雨の季節がやってきた!



うっとうしい梅雨の季節になりました。

雨の日には、しとふる雨の音を聞きながら、ヴェルレーヌでも読んでみようか？

それとも、心の中はいつもピーカント、痛快な小説でも読んでみようか？

それともそれとも……雨の歌でも口ずさんで、窓辺で雨にぬれる庭のアジサイを見つめながら、ちょっとゆううつなポーズを決めてみようか？

で、くちずさんじゃう歌は？



♪ぴちぴちちゃぶちゃぶらんらんら〜ん

で、この季節、おとなにも子どもにも愛され口ずさまれるこの歌は、北原白秋作詞
・中山晋平作曲の名曲。 ☞四季の童謡（CD）など

♪雨がふります 雨がふる〜

これも北原白秋作詞。作曲は広田龍太郎。こっちはちょっとさびしい「雨」
☞懐かしのキング童謡歌手〜パン売りのロバさん ベスト（CD）など

♪化粧する君の〜

ある年代には、胸キュッな名曲。伊勢正三・作詞作曲。歌はやっぱり イルカ かな？
☞イルカ全曲集（CD）など

♪あめ、あめ、ふれふれ〜

演歌の大御所、亜紀ねいさん！よっ！ ☞八代亜紀全曲集（CD）など

♪雨降りお月さん〜

日本の童謡100選に入ってる。野口雨情作詞・中山晋平作曲。
☞親子で歌いごう日本の歌100選（CD）など

こうしてみると、「雨」をモチーフにした歌って、けっこうありますね。

それも、童謡とか唱歌とか、うれしい・楽しい歌が多いようです。

うっとうしい雨の日でも、♪ぴちぴちちゃぶちゃぶ、なんて、楽しくなっちゃうし、
♪雨降りお月さん、雲の上〜なんて、しとしと雨の日にしみじみ気分を味わえる。

そんなところで、本も読んでみましょう。
雨に日は、図書館もいいよケロケロ！





なつかし・しみじみコース

●これが好き・ニッポンの歌

歌好きオトナ100人が選んだ語った

●歌は時代とともに～明治・大正・昭和20年まで

●歌は時代とともに～昭和21年から21世紀へ

歌集の出版で有名な野ばら社のシリーズ。

この本を見ながら、知っている歌を口ずさむ人も多い。

カラオケだけが歌じゃない。



●アニメソング



これも野ばら社より。

同時代を過ごした人たちって、アニメソングで盛り上がること多いと思います（経験者はかたる！）。なつかし・楽し、あの頃の自分は純粹だった、可愛かった、あんなのに夢中になって、と思いませんか？



●日本のうた 第1集から第7集

タイトル通り、明治から大正・昭和と「懐かしのメロディー」



ちょっとマニア？ コース

●昭和歌謡（長田 暁二）～流行歌からみえてくる昭和の世相

昭和元年から昭和64年までの大衆歌謡の流れを記述。その年の世相を反映している一曲を選び、歌詞とともに歌の背景を紹介。また、その年に流行した10曲を並べ、歌謡、芸能、放送、レコード界の出来事などを振り返る。

●唱歌・童謡ものがたり（読売新聞文化部）

「浜辺の歌」「月の沙漠」「赤とんぼ」…時代の変転を超えて愛唱される71曲をとりあげてゆかりの地を訪ね、その誕生と普及にまつわる数々の逸話を掘り起こす。

●唄めぐり（石田 千）

なぜ民謡は人を元気にするのだろう…。佐渡おけさ、会津磐梯山、河内音頭など全国の唄い手を訪ね歩き、根底に流れる情念をすくった滋味豊かな紀行。



●従軍歌謡慰問団（馬場マコト）

藤山一郎、東海林太郎、西條八十、古関裕而…。北は満洲から南はインドネシアまで、戦地を訪ねた彼らは何のために、何を歌ったのか。戦地の歌から“昭和の戦争”を考える。

●戦時演芸慰問団「わらわし隊」の記録（早坂 隆）

歌ではないけれど“戦地慰問”つながりで…戦場の兵士たちは芸に笑い、涙を流した…。埋もれていた資料や元兵士の証言を元に「わらわし隊」の実態を浮き彫りにしつつ、慰問団が見た「南京」や「慰安婦」等、あの戦争をめぐる一連の問題にも一石を投じたルポルタージュ。



硬軟とりまぜて、“雨の日のお楽しみの一助となれば”、のCD・本をご紹介しました。

もちろん、これ以外にもたくさん本・DVDもあります。

雨の日こそ、ぜひ図書館をご利用ください！ ご来館お待ちしております。

